

地域からはじめよう! 環境出前講座 を開催しませんか?



「温暖化について詳しく知りたい」「家庭でも取り組める活動を紹介してほしい」といったご要望がございましたら、各地域の推進員に出前講座の開催を依頼することができます。楽しい教材に子供たちも大喜び! みなさんも環境講座を開いてみませんか?

無料

主婦向け 家庭でできる省エネ講座

エアコンやテレビ、冷蔵庫など、講座を受けてすぐに実践できる省エネ講座。家計の節約にもなりますよ。

子ども向け 環境学習講座でエコまなぼ

ちょっぴり難しい省エネも、ゲームを通して楽しく学べます。省エネは子どもたちから率先してする時代へ。

工作編 -大人も子どもも楽しめる- エコバッグづくり

新聞紙を再利用して、エコバッグを作る講座。
新聞紙がオシャレなエコバッグに変身しま〜す!



▲イベントに出展の様子



▲新聞エコバッグ

その他にも、様々なテーマに対応した講座が実施可能。

<<出前講座開催までの流れ>>

1 出前講座開催の申し込み

センターのホームページ(<http://nccca.jp>)より申込用紙がダウンロードできます。
実施予定日の**1か月前**までに申込書をセンターへ提出してください。

2 センターから各推進員へ連絡・日程調整

学習の時間 / 原則午前10時～午後5時までの間90分以内

講師料 / **無料**(講座に必要な材料等を用意していただく場合がございます。)

※曜日、時間等とはご相談ください。なお、諸事情によりご希望に添えない場合がございますが、あらかじめご了承ください。

3 出前講座受付確定・実施

出前講座申込者へセンターから実施確定の連絡があり、当日推進員が伺います。

開催条件

※開催場所は県内に
限ります!

※5人以上から
開催可能です!

エコnaga+

発行月 / 平成27年3月 編集 / 長崎県地球温暖化防止活動推進センター
〒850-8570 長崎市江戸町2-13 TEL / 095-895-2512 FAX / 095-895-2566 発行 / 長崎県未来環境推進課

エコnaga+
オシャレなあなたは始めてる
プラス

環境教育教材できました!

低炭素杯2015…今年の見どころを紹介します

最新!熱とゴミの回収施設…時津・長与町の取組

古くて新しい再生可能エネルギー…千々石町の日本一古い小水力発電

エコドライブ推進事業2014成果発表

小値賀町の古民家再生プロジェクト

長崎県からのお知らせ

第27号

2015.04

写真は小値賀町。古民家のある通りの石垣です。



長崎県地球温暖化防止活動推進センター

お問い合わせ

住所: 長崎市元船町17-1 公益財団法人ながさき地域政策研究所 内
TEL: 095-820-4868 FAX: 020-4623-5633 <http://nccca.jp>

エコnaga+ プラス 第27号 2015.04

発行月／平成 27 年 3 月

編集／長崎県地球温暖化防止活動推進センター
http://nccca.jp

発行／長崎県未来環境推進課
〒850-8570 長崎市江戸町 2-13
TEL／095-895-2512
FAX／095-895-2566



「エコnaga+」とは…

「エコnaga+」は「長崎県地球温暖化防止活動推進センター」が制作している環境冊子です。長崎県未来環境推進課より発行され、県民の環境への意識を啓発するための内容となっています。環境の最新情報や環境コラム、また県内企業や個人、団体の環境の取り組みなども紹介し、楽しく読める盛りだくさんの内容となっています。発行：4回／年
配布先：各行政機関等（当センターへお尋ねください）

長崎県地球温暖化防止活動推進センターとは…

「地球温暖化防止活動推進センター」は、各都道府県に設置されており、長崎県の当センターもその中のひとつです。地球温暖化防止活動に関する「啓発・広報活動」、「活動支援」、「調査」などを行っており、その一環として、「エコnaga+」で情報を発信しています。
※本誌内では、〈センター〉と表記

長崎県地球温暖化防止活動推進員とは…

「長崎県地球温暖化防止活動推進員」とは、地球温暖化防止のために自ら省エネルギー、省資源に取り組むとともに、地域住民の方々へ温暖化に関する情報の提供と温暖化防止活動の普及を進めてくださる方々です。県から委嘱を受け2年間の任期で推進活動を実施します。
※本誌内では、〈推進員〉と表記

CONTENTS 目次

01. 省エネ講座実施の模様
各地区での教材制作
02. 全国の取組紹介
低炭素杯2015
04. 行政の取組紹介
最新ゴミ処理施設
06. 地域の取組紹介
日本一古い小水力発電
08. 成果発表
エコドライブ推進事業2014
10. こんなところにもエコ！
古民家再生プロジェクト
12. みんなで挑戦エコクイズ！
13. 長崎県からのお知らせ

長崎県内で省エネ講座が開催されました！

長崎県内10ヵ所で、当センター講師による、家庭の省エネについての講座が開催されました。講座では、「家庭の節電・省エネハンドブック」の内容を中心とした実践的な省エネ方法やその効果、また電気の検計票の見方などについて説明を行いました。多くの方にご参加いただき、省エネについて考えてもらうきっかけになったようです。

西彼地区

ララコップ本部
参加者23名



県北地区

佐々町役場
参加者41名



上五島地区

石油備蓄記念会館
参加者52名

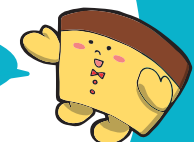


参加者の声

- ・電気使用量を見てどこでどう節電するか改めて見直す良い機会でした。（西彼地区）
- ・できるだけ家計にやさしく、節電できる所は今まで以上にやっていきたいと思います。（県北地区）
- ・電気に関してはあまり関心がなく、使っただけ支払っていましたが、これからは少し気持ちをかえて省エネに協力していこうと思います。（上五島地区）



省エネ講座で配布された「家庭の節電・省エネハンドブック」は当センターホームページ(<http://nccca.jp>)に掲載されています！ぜひ読んでみてください！



センターオリジナル

環境教育教材を開発中!!

当センターでは、推進員や地域の方々と協力して、オリジナル環境教育教材を10点開発中です！今回は教材開発の模様や出来上がった教材を3点ご紹介します！



紙芝居

ガワッパ さとった 切った 電気



カッパのガワッパ君が省エネの大切さに気づきます。

長崎県立口加高校・長崎市立野母崎小中一貫青潮学園の皆さんに、ご協力いただきました！



▲長崎市立青潮学園の生徒の皆さん



▲長崎県立口加高校の皆さん

紙芝居「ガワッパさとった切った電気」は、キャラクターイラストの考案を長崎市立青潮学園の小学生の皆さんに、紙芝居のイラスト作成を長崎県立口加高校3年生の皆さんに授業の一環でご協力いただきました。

左から
水田伊七章先生
3年生
酒井ちはるさん
綾部早紀さん
高橋朝美さん



紙芝居作成中の様子…

A2 パネル

新聞エコバッグのつくり方



新聞エコバッグの作り方手順を分かりやすく説明したパネルです。

A2 パネル

地球温暖化と私たちにできる事



地球温暖化に関するクイズや惑星の比較、また私たちにできることなどをパネルにした教材です。



低炭素杯2015

全国の地球温暖化防止に関する地域活動をご紹介!!

低炭素杯2015

今年で5回目!!

低炭素杯とは…

次世代に向けた低炭素社会を構築するため、学校・家庭・市民団体・NPO・企業などの多様な主体が全国各地で展開している地球温暖化防止に関する地域活動を報告し、学びあい、連携の輪を拡げる「場」として2011年から毎年開催されています。全国1,730団体から選ばれたファイナリスト39団体が、4つの部門(地域活動、企業活動、学生活動、地域エネルギー)のプレゼンテーションを行い、入賞団体には環境大臣賞をはじめとする各賞が贈られました。

今回は低炭素杯で最優秀賞を受賞した北海道の下川町と、長崎でもちゃんぽん等で麺食が多いことから麺繋がり、興味がわいた、香川県の「うどんまるごと循環コンソーシアム」をセンタースタッフの中村と中島が取材しました。



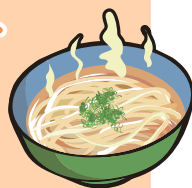
中村が取材

「うどん県」という地域の特性を活かした特徴的な取組を取材してきました!

企業や市民、行政が連携した共同団体「うどんまるごと循環コンソーシアム」

香川県発 うどんまるごと循環プロジェクト

香川県の名物といえばもちろん「讃岐うどん」。香川県のうどん消費量は全国平均の2倍強で、1人当たり2日に1食を口にしているという計算になる程の人気です。その一方で、サイズの不揃いや茹であがって時間が経ちすぎてしまったことから出る「廃棄うどん」が問題となっていました。そこで、この廃棄うどんを新たなエネルギーとして活用しようと、企業と市民、行政が連携したプロジェクトが立ち上がりました。



この課題に立ち上がったのが、地元高松の産業機械メーカー「ちよだ製作所」。ちよだ製作所は、酵母の力で廃棄うどんから化石燃料の代わりとなるエタノールを抽出するプラントを開発し、さらにエタノールを抽出した残りカスを発酵させ、発生したメタンガスを燃やして発電機を回す「うどん発電」に成功しました。発電の他にも、抽出後の残りカスから液状の肥料を作り、うどんの原料となる小麦や、薬味として使うねぎの畑にその液肥をまいているそうです。

「うどんてうどんを茹でて、うどんをつくる」サイクルを構築するため、共同体で立ち上がったこのプロジェクト。コンソーシアムメンバーの方は、「これから循環の環を保ちながら、県内外にこの取組を知ってもらうこと、そして子どもから大人まで環境教育を推進していきたい」と熱く語っていました。地域性が高く、うどんのようにコシのあるプロジェクト、今後もさらに地域に広がるといいですね。



香川県から参加した皆さん



グランプリ!環境大臣賞受賞団体! 地域資源“森林”を活用した エネルギー自給型小規模自治体モデルの構築

～誰もが暮らしたいまち、誰もが活力あるまち～ 下川町(北海道)

森林面積は88%!!

面積64,420haの北海道下川町は、長崎県対馬市70,884haよりも一回り小さく、人口3500人程の町です。近年、日本各地で問題となっている過疎化ですが、下川町では昭和55年の国勢調査で全国4位の人口減少率を記録しました。そこで下川町では、町面積の約9割を占めており、基盤産業でもある森林に注目し、町を挙げて循環型森林経営に取り組み始めました。循環型森林経営とは、伐採、植林、育成を適切なサイクルで循環させる森林経営のことで、雇用と安定的な森林資源を生み出し、地域を元気にするシステムです。今回は北海道下川町森林総合産業推進課の和田健太郎さんにお話を伺いました。



※写真提供…低炭素林事務局

町民の5人に1人が参加



北海道下川町 森林総合産業推進課 主事 和田 健太郎さん

「下川町では、昭和28年(1953年)に国有林の払い下げを受けてから毎年、植林を続けており、今では植樹祭として200名以上の町民に参加してもらう等、町民と共に植林を継続しています。さらに指定されたCO2削減活動を行うとポイントがもらえ、一定数貯めると地域で使える商品券と交換できる『エコ得ポイント』は町民の約5人に1人に参加しています。継続するためには経済的なメリットも重要ですし、楽しみながら活動に参加してもらうことも重要だと思います。」とこやかに話して下さいました。

森林資源を余すことなく活用!

ところで、伐採された森林資源は、幹の部分は建築に使われる用材、葉の部分は精油などに加工されています。搬出が難しく林地残材になっていた木材や、製材の際に出る端材などは木質原料製造施設に運ばれ木質燃料(木のチップ)となって町の公共施設(公民館や小中学校)で燃料として使用しています。現在では公共施設の暖房の約6割を木質燃料で賄っており、森林資源を余すことなく活用しています。

削減できた経費を、子育て支援に!

平成17年度から木質バイオマスボイラーを導入し、重油などの代わりに木質燃料を使用することで経費を削減してきました。削減できた経費は平成25年度では約1,700万円になりました。そのうち、半分を設備更新費へ、残りを給食費の補助・保育料の減額・中学生まで医療費無料等の下川町独自の子育て支援として還元しています。

地域を元気に!

これまでの下川町の取組が注目され、実際に平成24年と平成25年には転入者数が転出者数を上回りました。和田さんは「下川町独自の子育て支援を充実させることで、子供の出生率向上も期待でき、さらに若い世代が下川町の取組をより知ってもらうきっかけにもなっています。」と熱く語って下さいました。今後の下川町について尋ねると、和田さんは「地域にある資源を最大限に活かしながら、様々な取組を行っております。ぜひ今後とも下川町にご注目ください。」と話されました。



木質バイオマスボイラー

植樹祭の様子

中島が取材しました!

地域で森林を育て、その森林から得たエネルギーを地域で使い、更に地域の雇用も生み出すという、理想的なエネルギー自給の取組事例だと感じました。長崎県も森林資源が豊富なので、活用できるところがあるのではないかと思いました。



ダブルで回収!ごみ回収と熱回収!

ごみ処理で発生した熱を施設の冷暖房や足湯に活用!

長与・時津環境施設組合 熱回収施設

2015年1月、長与町に新しくごみ処理施設が完成しました。2015年4月から本格稼働するというこの施設は、環境に配慮した最新のごみ処理施設です。本格稼働に先立って取材をしました!



回収① ごみ



時津町のごみ収集車

案内をしてくださったのは、長与・時津環境施設組合事務局長の久松さんと、管理課建設係の豊福浩成さん。

久松さんは「今まで、長与・時津両町のごみ処理は長崎市等へ委託をしていましたが、今後は自前で処理ができるようになりました。」と嬉しそうです。

長与町と時津町は、これまで時津町にあった処理施設で処理をしていましたが、平成18年3月に閉鎖し、その年から今年1月まで長崎市にごみ処理を委託していました。「今までは時津町にお世話になったので、今度は長与が頑張らなくてはならない。」という当時の長与町長の考えから、長与町内にごみ処理施設をつくることになりました。そうしてできあがったこのごみ処理施設は長与町と時津町の接する場所に建設されており、立地・利便性はとても良いところにあります。一日の処理能力は54t。時津町・長与町のごみを十分に処理できる能力を持っています。



コンピュータ・監視モニターのある中央制御室



焼却炉の中。ごみを燃焼中。

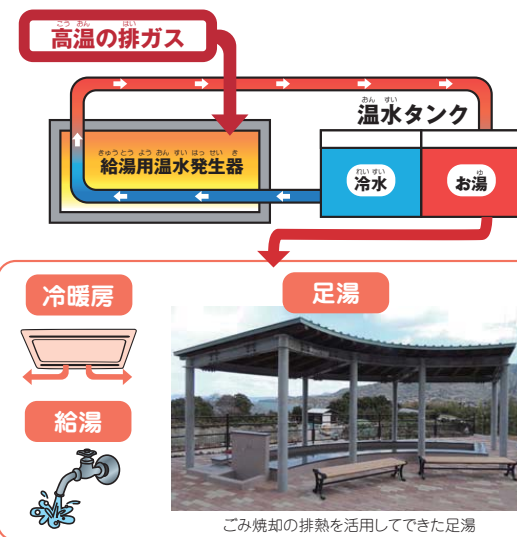
この他、もともと時津町にあったごみ処理施設は平成22年11月に「時津クリーンセンター」として生まれ変わり、長与・時津両町の資源ごみや粗大ごみの収集選別施設として活用されています。2町が設立した長与・時津環境施設組合が両施設の運営を担っていきます。

久松さんは「これまで長崎市の皆様には大変お世話になりました。施設ができて、自分たちの町でごみ処理ができるため、ごみを運搬する距離が短くなり、回収効率も良くなりました。収集運搬経費も抑えられ、二酸化炭素排出量も少なくなったと思います。」と話して下さいました。

回収② 熱



ところで、ごみを焼却する際は、800℃～1000℃という非常に高温の排ガスが発生することをご存知ですか?循環型社会形成のためには、ごみの燃焼で発生した熱を「熱回収」することが求められます。この施設ではこの熱回収を行っており、高温の排出ガスを利用して温水が作られます。その温水が施設内の給湯や冷暖房、足湯などに活用されます。本来なら捨てられてしまう熱を施設内で活用し、町民の皆さんにも楽しんでもらえることは、とても先進的で、エコな施設ですね!



私たちの生活の中で必ず出る「ごみ」。

ごみを燃やした熱を活用して冷暖房や給湯、足湯等に使えるなんて、一石二鳥です。収集運搬の効率アップで二酸化炭素排出量も少なくなり、地球温暖化防止に貢献していますね。



熱回収施設オリジナルキャラクター(写真中央)

長与・時津環境施設組合では、長与町・時津町のキャラクター「みっくん」や「とっきー」と共に施設内に描かれている施設のキャラクターの名前を募集する予定です。見学に来てくれた子どもたちにこのキャラクターの名前を付けてもらうことを考えているそうです。「このキャラクターは私が考えたんですよ」と微笑む久松さん。「4月からは見学の申込を受け付けますので、ぜひ皆さん見学に来てください。」

見学・研修コース



施設内の様子。奥は燃えるごみが集まるごみピット



施設内の解説版

施設内には、見学等に対応できるよう、説明用パネル、ビデオ等が設置されています。研修室からは、長与港や大村湾などが一望できるようになっていました。



120名収容できる研修室



研修室からの風景



長与・時津環境施設組合事務局長 久松勝さん



■お問い合わせ

長与・時津環境施設組合

〒851-2103 長崎県西彼杵郡時津町元村郷14-1

TEL/095-813-2050 FAX/095-813-2052

明治44年から100年以上続く水力発電所群! 運転時にCO₂を出さないクリーン発電! 千々石の水力発電所群



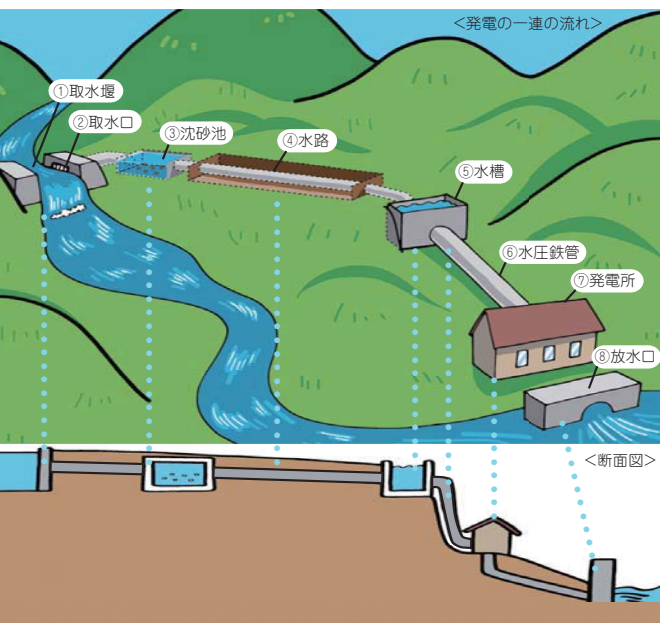
水力発電は火力発電とは異なり、発電の際に化石燃料を燃やさないで、二酸化炭素を出さない再生可能エネルギーのひとつです。千々石の水力発電所群は、第一発電所から第五発電所まで5つあります。すべて合わせて835kWの出力となり、約800世帯分の電力を賄うことができます。

千々石水力発電所群の中で、最も古い発電所は1911年(明治44年)に作られた第一発電所ですが、第二～第五発電所も1925年(大正14年)までに作られています。第一発電所は長崎県で最古の水力発電所であり、当時最新の設備で発電された電気は島原市(現島原市)で使われました。取材当日は、保守管理を行って

いる株式会社九電ハイテック諫早工務所の所長石田豊治さんと九州電力株式会社長崎支社の樋口勝馬さん、泉井由美さんにご同行いただき、詳しく説明していただきました。

運転時に二酸化炭素を出さない水力発電所のしくみ

千々石の水力発電所群は、水路式発電になっています。水路式発電とは、河川の上流に取水用の堰(せき:水をせき止めるための構造物)をつくり、河川の水を水路で下流に導きます。そして河川の勾配との間に落差を作って水を流し、水車を回して発電する方式です。発電にあたり化石燃料を燃やして発電を行う火力発電とは異なり、地形の高低差を利用し、水が流れ落ちることにより発電するため、二酸化炭素を排出しないクリーンな発電です!



- ①…川の水を一時溜める
- ②…発電に使用する水を取り入れる
- ③…水の中の土を沈めて取り除く
- ④…水を緩やかに水槽まで運ぶ
- ⑤…水を一時的に溜めておく
- ⑥…勢いよく水を落とす
- ⑦…水車を回して発電
- ⑧…水を川に戻す



水車(第二発電所)

第二発電所は今年で100周年! 元気に頑張るおじいちゃん発電所

1915年(大正4年)12月に発電を開始した千々石第二発電所は、2015年12月でちょうど100周年を迎えます。水車等の部品は水の衝撃で摩耗が起るため、古くなったものは新しいものに取り替えています。その際に水車の性能が向上し、発電量は徐々に大きくなっているそうです。第二発電所は発電開始当時91.5kWの出力でしたが、今では150kWの出力を持っています。雲仙岳の急斜面を流れる千々石川は約10kmと河川としては短めですが、水量が安定しており落差もあることが特徴です。水量が豊富で、今まで発電のための水がなくなったことはないといったところが魅力的で、だからこそ、100年間動いてきたのです。

発電所へと続く石橋

千々石第二発電所の手前には、「水電橋」と名付けられた石橋があります。この橋は1915年(大正4年)5月に作られたと印す標柱が立てられていて、1915年(大正4年)12月に発電を開始した千々石第二発電所のために作られた橋です。またこの「水電橋」は長崎県の景観資産の一つ「千々石の石橋群(6基)」にも登録されています。



標柱

橋全体

歴史こぼれ話

水力発電の歴史は古く、1888年(明治21年)に宮城紡績所に日本で初めての自家用水力発電が誕生したという記録があります。その後、1894年(明治27年)頃には火力発電の燃料として主原料であった石炭の価格が高騰し、各地で水力発電企業が続々と誕生しました。1909年(明治42年)2月、「小浜水力電気株式会社」が設立され、1911年(明治44年)に千々石第一発電所が誕生し、運転が開始されました。電力は島原市(現島原市)へ供給され、町民は電力が使えることを大いに喜んだそうです。

明治～大正時代にかけては石油ランプで生活していた時代で、電気に関する知識がなかったんだ。電気は明るいから、火が付くと勘違いして、刻みタバコをキセルに詰めて、電球に押し付けていたという話もあるんだって。



水力発電の今

電力需要が増えた2010年における日本の水力の電源別発電電力量の割合は一割にとどまっており、既にダムや川などを利用して作られる発電所は開拓しつくされていると言われています。しかし、石油や天然ガス等の化石燃料を海外からの輸入に頼っている日本では、地域でエネルギーを自給することが非常に重要だと考えられ、この水力発電に注目が集まっています。

取材にご協力いただいた皆様からのメッセージ



九電ハイテック
所長 石田豊治さん

九州電力
樋口勝馬さん

九州電力
泉井由美さん

一つのエネルギー源に依存するのではなく、火力発電や自然エネルギーをうまく組み合わせるエネルギーのベストミックスは非常に大切だと思っています。千々石水力発電所のように、100年も使い続けられている施設というのは、先人の人々の維持管理があってこそです。今後も貴重な資源である水力の発電所を大切に次の世代に繋ぐため、私たちも維持管理に努めていきたいと考えています。また現在九州電力では、河川の維持用水を放水するダムでの維持流量発電やかんがい水路を利用した発電など、小規模水力の開発に取り組んでいます。また、水力発電所はとてもデリケートなので、葉っぱやごみが水車に巻き込まれると、発電が止まってしまうことがあります。自然保護の観点からも、施設付近ではごみを捨てないようにお願い致します。

エコドライブ推進事業2014

成果発表

知って学んで
まねてみる

ながさき低炭素ライフ推進コンソーシアム

コンソーシアム…企業や団体、また行政等が共同で事業を行う形式

エコドライブについて「知って学んでまねてみる」をテーマとしたエコドライブ推進事業2014。県内12の企業・団体の車、延べ326台に、秋から冬にかけての最大4ヶ月間、実験的にエコドライブを実施していただきました！今回はその成果と、エコドライブ成績優秀者へのインタビュー内容等をお知らせします。

コンソーシアムメンバー（敬称略・順不同）

一般社団法人長崎県タクシー協会 / 日本紙工印刷株式会社 / 印刷工業組合
長崎総合科学大学教授 田中義人 / 長崎県地球温暖化防止活動推進センター
オブザーバー：長崎県環境部未来環境推進課

エコドライブ参加企業・団体（敬称略・順不同）



Aグループ：業務でエコドライブをしたことがあるグループ

・タクシー事業者



ラッキー自動車株式会社

株式会社浦上タクシー

Bグループ：今回初めて業務でエコドライブをしたグループ



中央タクシー有限会社

城山交通株式会社

・印刷事業者



株式会社インテックス

オムロプリント株式会社

日本紙工印刷株式会社

トップアート紙工印刷有限会社

・小売・一般事業者



株式会社コミュニティメディア

ひぐちグループ

株式会社サイキ

ヤベホーム株式会社

エコドライブの具体的な取組

エコドライブの取組としてドライバーが実施したのは、たくさんあるエコドライブ手法の中でも主に「ゆっくり発進」と「早めのアクセルオフ」の2つ。この2つの取組をどのくらい意識できたかを自己評価してもらいました。また、燃費を計測するため、給油の際に走行距離と給油量を記録し、自分の運転を振り返ってもらうことで、エコドライブの習慣化を図りました。

発進

ゆっくり発進

スタート時5秒間で
時速20km/hの加速を目安とします。

5秒間

常に意識
していれば

減速

早めのアクセルオフ

止まるところを確認したら
早めにアクセルから足を離します。

アンケートで
自己評価

習慣化

CHECK!

エコドライブの成果

A・Bグループ共に
燃費が向上しました！

※グループについては、左図参照

A
グ
ル
ー
プ

燃費向上率

1.21%

B
グ
ル
ー
プ

燃費向上率

3.72%

<比較方法>

エコドライブを行った月と前年の同じ月の燃費を比較

<比較方法>

エコドライブを行った月と同年のエコドライブを行っていない月の燃費を比較

エコドライバー成績優秀者インタビュー



最優秀
エコドライバー

日本紙工印刷株式会社 松山社長

繁忙期になると急いでしまい、エコドライブの意識が薄れがちになりましたが、業務でエコドライブをしていると、プライベートでもなんとなくエコドライブを意識して運転するようになりました。経費削減にもつながると思うので、今後も意識してエコドライブを行っていこうと思います。



ラッキー自動車株式会社 平木さん

急発進と急加速をしないように意識し、ゆっくり発進、ふんわり加速を心掛けました。ドライバーとして燃費を強く意識することで、プライベートでも自家用車に対する思いやりが強くなりました。エコに対する気持ちが薄れたときに実施期間中のことを思い出し、運転を日々見直していきたいと思います。



中央タクシー有限会社 今村さん

エコドライブ期間中は、主にゆっくり発進に重きを置き、エコを常に意識し乗務しました。運転の方法を変えるだけで、これまでの運転に比べて燃費が大きく違うことを知ることができたため、エコドライブを実践してよかったです。プライベートでも余裕を持った運転を心掛け、エコドライブを続けていきたいです。



オムロプリント株式会社 池田さん

どこまで燃費向上ができるかを楽しみながらエコドライブを行うことができました。環境問題に対して一人ひとりができることは小さいですが、個々が集まれば大きくエコに貢献できることを認識することで、自然とエコドライブを行っていくように思えます。

日頃からエコドライブを実施しているAグループのドライバーも、乾いたタオルを絞る状況、また年末の繁忙期にも関わらず、燃費が向上しました。



エコドライブの効果は、環境への負荷を低減させることや燃料代の節約になることだけではありません。常に安全運転をする習慣が身につくため、交通事故の防止にもつながります。



ゆっくり発進

スタート時5秒間で
時速20km/hの加速を目安とします。

と

早めのアクセルオフ

止まるところを確認したら
早めにアクセルから足を離します。

この2つから意識して、みなさんも今日からチャレンジしてみましょう！

古くて新しいHPOの島、 小値賀町。大切なものを長く使う



小値賀町(おちかちょう)は、長崎県の五島列島北部の小値賀島とその周辺に散在する大小 17 の島々を有する、人口 2700 人足らずの島です。古くは 25000 年前のものと思われる旧石器時代の遺跡があること、遣唐使の寄港地、捕鯨の基地などとして歴史に多く登場することから、小さい島ながら、歴史的要素が濃い島といえます。その小値賀町では、古民家を再生し快適な宿として宿泊できる「古民家ステイ」があります。事の始まりは、国土交通省の「YOKOSO JAPAN 大使」でもある東洋文化研究者のアレックス・カー氏が小値賀町を訪れ、島に残る古民家の素晴らしさに惚れ込んだことからです。その後、町有財産であった古民家の「旧藤松邸」をレストランに改修し、さらに町内に点在する古民家を5棟7部屋の宿へと再生する「古民家再生事業」として実施しました。その数年前から始めていた、自然体験や農林漁業体験民宿によるアイランドツーリズム事業との組み合わせにより、地域の活性化へ結びつくことを目指しました。小値賀町建設課長の升水さんは、「旺年に建てられた小値賀町の建築物は、質が高く、1戸1戸が個性的です。「古民家再生事業」は、この貴重な建物を守り活かしながら、次世代に伝えていくという大切な事業です。」と、話して下さいます。



「島に暮らすような旅をする」をコンセプトとするこの事業は、小値賀再生の大きな鍵を握っています。私も実際古民家ステイを体験してみました。散歩しながらスーパーに立ち寄ったり、地元の人に教えてもらった裏路地の定食屋さんに夕食を食べに行くのもまた楽しいもの。そして宿に戻り、持参したモバイル音楽データを再生しながら、近所で買い込んだおつまみでゆっくりグラスを傾けるのもまたオツなものでした。普段と異なるゆっくりとした時間が流れていくのを感じ、初めてなのに、まったくくつろげるのは、やはり古民家ならではの暖かさや建物の風格から来るものなののでしょうか。



古民家の中でも水回り関連は最新の機器に取り換えられています。



静かな街中に佇む、
古民家の1つ「先小路」。
通りの雰囲気にも溶け込んでいます。

※小値賀町のこの4つの古民家は6つの宿となって長崎県の「長崎県景観登録資産」として平成27年3月に登録されました。

古民家を活用する上でとても大切なことは、その管理。再生技術はもちろんの事、それ以上に大切なことは、持続させるための技術と管理のシステム。傷んだ建物を再生するのに、技術を持った職人さんの存在は重要です。しかし、完成は通過点にしか過ぎず、今後もこれらの建物を維持していくためには、きちんと管理を行わなければなりません。幸いなことに、「古民家再生事業」には、地元の大工さんが携わったそうで、地元の事は地元でやるスタンスから、職人さんの存在は大きいと升水さんは教えて下さいます。また、日頃の管理は指定管理制度により株式会社小値賀観光まちづくり公社が行っており、社員はもちろん清掃作業のパートタイムなど雇用確保につながっています。



そして、島の人たちの努力も欠かせません。古民家ステイ「親家(おやけ)」の屋根を葺き替えた時には、島民の有志を募り、ボランティアで屋根を葺き替えました。もともと小値賀町では、この様な住宅の大規模な補修作業がある時には、家主の親戚や友人が集まって作業の手伝いを行うという習慣があり、この屋根の葺き替えも特別なことをするという意識はなかったと言います。島の環境を守るため、島の宝を守るため、この様な慣習を伝承することも重要です。大都市と異なって、地方には高齢化による過疎の

問題があります。都会から離れたところは、信じられないスピードで人口が減っています。過疎に苦しんでいる地方では、健全な観光がますます重要となってくるでしょう。景観と環境保全ができている観光地とそうでないところの差が更につき、魅力ある地域、すばらしいところだけが生き残っていくことになるのかもしれませんが。このプロジェクトに関わった先述のカーさんも「今までは景観や自然保護というものは耽美主義者のせいたくで、『経済原理にはなじまない』という見方がありましたが、今、美的景観は経済のもとです。それによって稼げる時代が変わったのです。これは大事なポイントだと思います。小値賀も徳島県の祖谷(いや)も京都も、観光ビジネスをどうしても成功させる必要があります。そうでないと、いつまでも国や自治体からの補助に頼ってしまって、独り歩きできません。だから観光ビジネスで成功して初めて、地方が生まれ変われると思います」と述べています。島の景観と環境保全、そして古いものを活かすための人材と技術の活用、この全てがうまくかみ合っ、この島の再生が出来つつあるのを感じます。このプロジェクトは全国からも大変注目されているものです。ぜひ、県民の皆様も一度小値賀島を訪れて、心豊かになれる古民家ステイを通じて古くて新しい持続可能なエコ体験されてはいかがでしょうか。

小値賀は特産品のピーナッツに関するお土産が沢山あります。



説明をいただいた
小値賀町建設課長
升水裕司さん

平成27年4月1日より、フロン排出抑制法が施行されます。

フロン排出抑制法とは？

オゾン層の破壊と地球温暖化の原因となるフロン類の排出抑制を一層強化するため、フロン回収・破壊法が改正され、フロン類の製造から廃棄までの包括的な規制措置を講じる「フロン排出抑制法」となりました。

フロン類(HFC、HCFC、CFC)が冷媒として使用されている業務用冷凍冷蔵・空調機器の管理者(機器の所有者等)には、機器及びフロン類の適切な管理が義務付けられます。

冷媒漏えい防止の
ための機器の点検

漏えい時の修理

修理なしでの
充填の原則禁止

機器整備の
結果の記録・保存

また、一定量以上の冷媒の漏えいがある場合には、毎年度、国への漏えい量報告が必要となります。

※対象となりうる管理者の具体例

事業所や自社ビル等を所有する全ての業種の事業者、医療関係(病院、介護施設等)、学校関係、飲食業関係、農林水産業関係(食品工場漁船等)、宿泊関係(ホテル、旅館等)、運輸関係(冷蔵冷凍倉庫、鉄道、旅客機、船舶)等

制度の詳細はコチラ

お問合せ

長崎県環境部未来環境推進課 長崎市江戸町2-13
TEL:095-895-2512 FAX:095-895-2566

環境省ホームページ

http://www.env.go.jp/earth/ozone/cfc/law/kaisei_h27/index.html



あなたはどれだけ知っている? みんなで挑戦エコクイズ!!

水力発電



〇〇の中に入る文字を考えよう!

水力発電は、河川などの水の〇〇を利用して水車を回し、電気をつくります。

A.しぶき B.落差 C.温度

エコドライブ



〇〇の中に入る文字を考えよう!

エコドライブのコツは、「ゆっくり発進」と「〇〇アクセルオフ」です。

A.早めの B.遅めの C.ゆっくり

エコクイズの答え: A.水力発電 / B.エコドライブ / C.ゆっくり



世の中にあふれるエコワード 調べてみると、よく分かる!!



低炭素社会

経済発展を妨げることなく温室効果ガス排出を大幅削減した社会のことです。化石燃料への依存が温室効果ガスを大量に発生させている現在、危険な気候変動を避けるためにも、低炭素社会への移行が求められています。再生可能エネルギーやエネルギー効率の向上、断熱などによる無駄なエネルギー需要の削減など、様々な方策が考えられています。

小水力発電

高いところから落ちる水のエネルギーを利用して水車を回し、発電するシステムのことです。水力発電より発電量は低いですが、近年注目されている再生可能エネルギーの1つです。農業用水や上下水道など、無駄に捨てられている水のエネルギーを有効利用することができます。

熱回収(サーマルリサイクル)

廃棄物を焼却する際に発生する熱エネルギーを回収して、有効活用することをいいます。熱回収の具体的な例として、ごみ焼却施設の焼却熱を回収し、施設内で暖房や給湯に利用したり、地域の冷暖房などに活用することが挙げられます。また、ごみ焼却施設の焼却熱から発電する方法もあります。